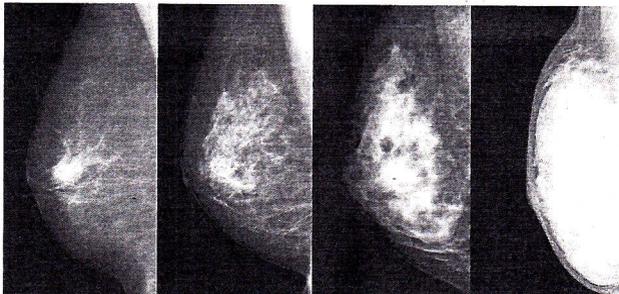


# がん対策 ③

## よくわかる

い。検診での発見率を上げるため、乳房X線撮影検査(マンモグラフィ)を中心とした検査方法の見直しが進んでいる。

女性特有のがんである乳がんの患者数は増え続けており、国立がん研究センターによると2015年は8万9400人になった。女性の部位別で最も多い。患者数が増える一方、早期発見できれば完治するケースも多



右の2つがデンスブレストの画像。全体が白っぽくなり腫瘍が見つけにくい=NPO  
法人乳がん画像診断ネットワーク提供

白っぽくなり、腫瘍と乳腺の判別が難しかった。6割、7割の日本人女性はデンスブレストの研究もあり「検診を受けていても小さな腫瘍が見逃されやすい」(さくらウィメンズヘルスケア)

アグループ乳腺科の戸崎光宏(部長)。

マンモグラフィに加えて超音波診断装置を併用することでがんの発見率が上がる。厚生労働省が進める「JUSTART」プロジェクトでマンモグラフィと超音波診断装置を併用したときの早期乳がん発見率が1.5倍になったとの結果が出た。今後「乳房のタイプを告知し、一人ひとりのタイプに応じた検診が必要となる」(同)。

女性の部位別患者数で5位の子宮がんも、早期発見できれば比較的治疗がしやすい。将来妊娠が可能となるケースもあるため、若年層の発症が増えている子宮頸(けい)がんについては、特に検診による早期発見が重要となっている。

子宮頸がん検査は子宮の入り口である頸部を綿棒などでぬぐい細胞を採取して実施する。基本的に痛みもなく1分程度で済む。細胞そのものを検査する「細胞診」が中心だ。だがヒトパピローマウイルス(HPV)感染を調べ「HPV検査」も導入され始めている。検査を併用することで発見率が大きく向上するとの研究も。現在、国や自治体で研究が進められている。

子宮頸がんはHPVが原因で予防できる。2種類のHPV感染を予防できる。世界的には広く普及しているが、健康被害を訴える声もあり、現在日本では積極的な接種の勧奨を中止している。

ワクチンを接種したとしても完全に予防できるわけではない。接種の有無にかかわらず20歳以上の女性は2年に一度検診に行くことが望ましいとされているが、検診率は約3割と低いのが現状だ。他のがんと違い若年層での発症が多く、学校教育を含めた検診率向上への取り組みが必要となる。

# 乳がん、マンモ×超音波で発見